

リヨン自転車展（R' Bike”）参観及び同市内自転車店調査報告

1. リヨン自転車展（R' Bike”）

フランス国内向け自転車展は、本年よりパリとリヨンにて毎年交代で開催されることとなり、今年はリヨンの見本市会場にて開催された。

【R' Bike ”】

主催： GL events, EXTRA SPORTS

会場： eurexpoLYON

会期： 2010年9月18日(土)～20日(月) 9:00～18:00

使用ホール： ホール9、10 18,000 m²

入場者数： 10,958人（うち小売店1,746）

出展社数： 116社



会場正面



ホール9の様子

展示会場は、リヨンの中心部からトラムで10分、更にそこから専用バスで10分の場所に位置していた。空港と中心市街地を直結するトラムが本年開通したばかりで、本会場はその中間駅にあり利便性は高い。昨年、フランスでは本展とパリ展が競合したが今年は晴れてフランスを代表する自転車展示会となり、出展社数は116社、来場者数は10,958人であった。昨年のパリ展では見られなかったシマノやラピエールのほか、ゼファール等の地元ブランドも見られ、その他の出展者では、スポーツ車では地元のLOOK、TIME、ドイツのCUBE、フォーカス、WINORA、GHOST及びベルガモント、更にKTM、BMC、メリダ及びFUJI等が揃っていた。しかし、パリ展常連でいつも大きな小間でジタンやビアンキ等を出展していたVelo&Oxygenは見られなかった。また、地元のマドリッドの展示会では見られなかったオルペアはほぼ同時期に開催されたリヨンの展示会に出展していた。更に米国ブランドの姿はほとんど見られなかった。なお、ドイツの共同購入団体ZEG傘下の小売店チェーンVELOLANDは、同ブランドのBULLSのスポーツ車を中心にペガサスの電動アシスト自転車など数多くの自転車を出展していた。更に、電動アシスト自転車を専門に出展している小間もいくつか見られ、会場内ではホール内部の周回試乗コースと屋外にも試乗車とコースが準備されているなど、電動アシスト自転車にも力を入れていた。



ラピエール



ゼファール



VELOLAND



オルベア

主催者によると小売店主の来場者は昨年より増えたとしているが、20日のビジネスデーに現地を訪れた感じでは会場が人で溢れているという印象は持てなかった。この展示会の前に別団体による自転車小売専門店向けハウスショーが開催されたため、出展者、来場者ともに本展に参加する意義が薄れたとも考えられる。次回、フランスのビジネスショーとして成功を収めるためには、そのような催事との兼ね合いも十分考慮する必要がある。

来年はパリ展が開催される番であり、リヨン展は2012年9月に開催予定である。



電動アシスト自転車の場内試乗コース



試乗車



屋外試乗コース受付



表彰を受けた電動アシスト自転車

2. リヨン市内自転車店調査

調査実施日：平成22年9月20日（月）

訪問地域：リヨン市内

調査店舗①

最初にフランス全土に展開するスーパーマーケットの店舗を訪問した。同チェーンは自転車販売も積極的に行っているが、訪問した店舗は中心市街地の食料品と生活用品が中心の店舗であり、自転車はジュニア用 MTB が 3 台、109 ユーロ (12,426 円) のみであり、他にはタイヤ、チューブ、パンク修理キットなど補修用の部品が僅かにある程度であった。

調査店舗②

次にフランス最大手のスポーツ用品チェーンのリヨン市内中心部のショッピングモール内にある店舗を訪れた。店舗は 4 階部分にあるにも拘らず、休日明けの月曜日の朝であったためか、入口すぐ横にある自転車整備場には自転車を修理に持ち込んだ女性客 3、4 名が既に列を作っていた。その場所には顧客から預かった自転車が 40 台程あり、修理などの作業依頼が多い様子が伺えた。

MTB は合計 40 台程で特価 80 ユーロ (9,120 円) の MTB 類型車に始まり、リジッドモデルは 100~200 ユーロ (11,400~22,800 円)、フロントサスペンション付きは 200~300 ユーロ (22,800~34,200 円)、前後サス付きは 300~500 ユーロ (34,200~57,000 円) といった価格帯の商品が展示されていた。シティ車は 5 台で 250~300 ユーロ (28,250~34,200 円)、トレッキング車 15 台は 200~300 ユーロ (22,800~34,200 円)、折りたたみ車 10 台は 300 ユーロ (34,200 円)、子供車 10 台は 150 ユーロ前後 (17,100 円)、幼児車 5 台は 70 ユーロ (7,980 円) 前後の商品が展示されていた。すべてオリジナルブランド車であり、色も黒、白、グレー等の落ち着いた色が多く、顧客への案内表示等も分かりやすく内容も充実し、売り場は整然としていた。また、部品や付属品も多種多様に揃っており、同社オリジナル品の比率が高かった。

同社の自転車の価格帯は総じて専門店に比べると低いと思われるが、その内容の充実ぶり

は決して引けを取るものではなく、月曜の开店直後に自転車売り場には5、6名の顧客が品定めする姿を見かけ、同国におけるスポーツ用品チェーンの販売シェアの高さを実感した。

調査店舗③

最後に調査店舗②とは別のスポーツ用品チェーンの店舗を訪問した。同じショッピングモールの地上階に位置するが、店舗規模は上記②に比べると小さい。しかし、陳列された自転車では、MTBは1,000～1,500ユーロ(114,000～171,000円)の高額カーボン車が3台、フロントサス付き3台は1,000ユーロ(114,000円)前後、500～700ユーロ(57,000～79,800円)が10台、500ユーロ(57,000円)以下が5台と価格帯は高めである。更にロードレーサーも3台あり1,000ユーロ(114,000円)前後、また、最近の流行をいち早く取り入れシングルギヤ車も300～500ユーロ(34,200～57,000円)で5台、小径車10台、BMX5台が陳列されていた。

なお、シティ車は30台余りは200～300ユーロ(22,800～34,200円)で、明るい色のフレームが多くタイヤも黒とクリーム色があるなど華やかな印象であった。電動アシスト自転車2台は500ユーロ(57,000円)の廉価車であった。部品、付属品もある程度揃い、自転車整備場も備えられていた。上記の店舗②に比べ、多少雑然とした売り場との印象も受けたが、多種多彩なものを添えた商品展開は大変に興味深かった。



以上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

